

2018年（平成30年）10月5日

お客さまの安全・安心のために 異常時総合訓練を相模大塚駅構内で実施

相鉄と大和市消防本部・大和警察署から約230人が参加

相模鉄道株式会社

相鉄グループの相模鉄道㈱（本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、10月10日（水）に相鉄線 相模大塚駅構内（大和市桜森）で異常時総合訓練を実施します。

異常時総合訓練は、踏切事故を想定し、お客さまの避難誘導、関係各所への連絡通報、負傷者の救出や復旧作業等を速やかに行えるよう、関係者間の連携強化と事故処理技能の向上を目的として毎年秋に実施しているものです。

今回は、「瀬谷駅～大和駅間の踏切で急行列車がトラックと衝突し、列車が脱線した」という想定のもと、約230人（相模鉄道：約200人、大和市消防本部・大和警察署：約30人）が参加し、事故にあった列車内からお客さまを避難誘導する訓練や、事故で動かなくなった列車と救援列車を連結する訓練等を行います。

相模鉄道㈱では、お客さまが安全・安心にご利用いただけるように、異常時総合訓練以外にも「津波対応訓練」や「トンネル内火災避難誘導訓練」などを実施しています。

概要は、別紙のとおりです。



異常時総合訓練（昨年度）の様子

2018年度 異常時総合訓練の概要

1. 名称

2018年度 異常時総合訓練

2. 日時

2018年10月10日(水) 10時00分～12時45分

3. 場所

相模鉄道本線 相模大塚駅構内(大和市桜森3-1-1)

4. 参加人員

約230人〔相模鉄道(株)、大和市消防本部、大和警察署〕

5. 事故想定

横浜駅発海老名駅行きの急行列車が、瀬谷駅～大和駅間にある踏切を通過する際、遮断桿を突破して踏切内に進入してきたトラックと衝突し脱線、車両床下から発煙があった。このため、一部の車両機器、電車線、線路が損傷し、踏切警報機、安全柵が損壊した。一方、衝突したトラックは、上り線路側に跳ね飛ばされ破損・発煙した。この事故により、列車内のお客さま数人が負傷するとともに、トラックの運転手が運転席から投げ出され、列車の下敷きとなった。

6. 主な訓練内容

- ①併発事故防止訓練
- ②情報提供・連絡・通報訓練
- ③消防・警察との連携による負傷者の救出および避難誘導訓練
- ④損傷箇所の早期復旧訓練
- ⑤救援列車との連結訓練